

1

1 茶柱  
2  
3 庭  
3 世代

2

4 横行  
5 研究  
6 定員

3

1 ① ウ  
④ ア  
⑧ 工  
2 I タイム  
II チームワーク

4

3 A 二  
B 五  
4 工  
5 ⑤ ウ  
⑦ イ

3

6 ア・エ  
7 工  
1 コケ(たち)  
2 A 千  
B 万  
3 ② ウ  
④ イ  
4 I コケ  
(4 I 完答)  
II コケ  
(4 II 完答)

5

友情  
6 I イ

6 II

i 乾燥しやすい  
ii 今ある  
個  
(6 II i-ii 完答)

6 II iii

コケがほ

7

でも、コケ

配点	
1	各2点×6=12点
2・3	各4点×22=88点
〈計〉100点	

- 1 「茶柱」の「柱」の右側は、「」↓「王」の順に書く。
- 2 「庭」の「まだれ」の内側の部分を「延」と書いてはいけない。「壬」↓「えんにょう」の順に書く。
- 3 「世代」とは、ここでは「同年代に生まれ、共通した考え方や感じ方を持つ人びと」のことである。
- 4 「横行」とは、「勝手なふるまいがさかんであること」である。
- 5 「研究」の「究」の部首は「うかんむり」ではなく「あなかんむり」である。
- 6 「定員」とは、ここでは「乗り物に安全に乗れることを考えた上での決められた人数」のことである。

2

- 1 ( ) ① ( ) は「なに勝手に決めてるのよ! 男子は関係ないじゃない!」と「立ち上がって」言っているところから考えよう。( ) ④ ( ) にもウがはいりそうに思えるかもしれないが、男子も女子も「女子に足を引っぱられると男子も迷惑しちゃうんだよ」(だから「タイムの速い順」で選べばいいだろう) と思っている空気感の中で「全然ベストメンバーじゃないもん」と言い切っているところから考えてほしい。( ) ⑧ ( ) は、直後に「でも、その声は宏美の耳には届かない」とあることから考えよう。言いづらい事情があつて言うのをためらう様子をあらわす「口をもごもごさせて」という表現は合わない。
- 2 I あらかじめ話を通してあつたとはいえ「ベストメンバーで走らなきゃ一組や三組に負けちゃうかもしれない」と言っている原くんに、「そうそうそう」「オレも賛成します」と他の男子も概ね同意している。——線⑤のあとで「タイムの速い順に四人選んだのにベストメンバーじゃないわけ?」と言っていることから、男子が何を重視しているかはわかるだろう。
- II 男子が「タイムの速い順に」選んだベストメンバーに対して、美和は「そんなの、全然ベストメンバーじゃないもん」と言っている。さらにそのあとで、「リレーはチームワークが大事なんだもん」「吉村さんって転校してきたばかりで、まだ性格とか人柄とか、全然わかんないもん」と言っているように、美和はまだ宏美とあまり仲良くはなっていないと思っっている。そんな宏美と春香を入れ替えて「ベストメンバー」とすることに抵抗があるのだろう。
- 3 「転校してきた吉村さんのタイムが第二位だった」のに、宏美をメンバーにすることに反対するということは、「一番タイムの遅いひと」をメンバーにしたままでいいということである。本文十行目に春香が「四人の中の四番目だ」とある。宏美が美和と絵里香の間に入るのだから、春香は五位になってしまふ。
- 4 春香が補欠に回ることを「少しひっかかる」としながらも「春香ちゃんもわかってくれるよ」と、自分がリレーのメンバーになることを受け入れてもらええると思っっているのだが、その底にある感情を考えたい。美和や春香と仲良くなったと思っっているからこそ、代わっても大丈夫だと思っっていたのだろう。アだと、クラスのためではなく自分のためということになってしまふ。
- 5 ——線⑤は、春香を補欠にして宏美をメンバーにすることに對し、男子はもちろん、女子も「確かにそうだよね」と思っっているにもかかわらず、美和は「ベストメンバーじゃない」と反論しているところから考えよう。——線⑦の直前で「吉村さんって転校してきたばかりで、まだ性格とか人柄とか、全然わかんないもん」と美和が言っっているが、これはつまり、仲が良くないと言っっているのと同じである。——線⑦の直前で男子が「ひでえー?…」と言っっていることも手がかりになるだろう。
- 6 本文十一行目に「昨日、その順番が変わった」とあるのだから、「夏休みの間もときどき集まって、バトンを渡す練習とかしてた」「わたしたち」の中に宏美ははいらない。また、クラス対抗リレーの女子のメンバーの中に「原くん」はそもそもはいらないし、——線②の直前にあるように「美和とはしょっちゅうぶつかっている」原くんを交えて練習するとは考えにくいだろう。
- 7 ——線⑨の直前の「仲良くしてたじゃない、友だちになつてたじゃない」というところからわかるだろうが、転校してきた宏美は、美和や春香たちと仲良くなつていたと思っっていたのだ。だが、春香がリレーのメンバーから外れそうになると、美和はそれに反発し、宏美を「まだ性格とか人柄とか、全然わかんない」と評しているのである。

3

- 1 この段落だけでは何についての話なのかわからないが、読み進めていくと「コケ」についてであることがわかるだろう。
- 2 A・Bの直前の「糸くずのようなものから、小さなクッション、ペタンと平たいコケ」や、一文前の「いろいろな種類のコケが混ざつて」という表現から、その意味にふさわしい四字熟語を考えよう。
- 3 ( ) ② ( ) の前には胞子が木の幹に定着しない様子、あとには定着する様子が書かれているので、( ) ② ( ) には「しかし」がはいる。( ) ④ ( ) の前の「新参者のコケは、すくすくと生長を続ける」ということを受けてあとの「コケのマットにさまざまなかげがみられることになる」ということが引き続き起こつているので、( ) ④ ( ) には「そして」がはいる。
- 4 ——線③の直前に「こうして」とあるので、ここより前をさがす。——線③の一行前に並列の目印である「おまけに」があるので、この前後に一つずつあると見当がつけられる。あとは字数を正確に数えよう。
- 5 「本文中のここより前から」という指示を読み落としてはいけない。「助け合い」とはここではコケ同士が協力しながらいっしょに生きることをあらわしているの、そういう内容について書かれていゝ二段落目や四段落目からさがそう。
- 6 I 「こうした争い」について書かれていゝのは、直前の段落である。「樹幹のような広くもない環境では、生物同士の争いも激しく」というところから、「樹幹」がコケにとつて何にあたるのかと考えればよい。
- II 直後に「これには、二つの理由がある。一つ目は」とあり、本文の最後の段落のはじめに「二つ目は」とあるので、この二つであることは明らかである。問4でもそうだが、文章を通読する際にこういう目印に注目しながら読むことが大切である。
- 7 ①の一文の「ただの緑の塊」が何をあらわしているか考えよう。文章の話題から考えて「コケのマット」であろう。また、「遠くからみると」という表現から、この一文をもどすべきところの直後に「近くからみると」という内容が書かれていゝはずだという見当もつく。この一文がぬけていゝことによって、そもそも本文中のつながりがおかしくなつていゝことにも注意したい。